

飛ぶ農民オーケストラ

来月、デンマークで海外初公演

道内で農業に従事する人たちでつくるアマチュアオーケストラ「北海道農民管弦楽団」(牧野時夫代表、約60人)が2月、初の海外公演となるデンマークに向けて出発する。現地のアマチュア楽団と合同演奏するほか、農業学校でも音楽講座を予定している。(三木一哉)



北海道農民管弦楽団は1994年結成。きっかけをつかったのはアマチュアのバイオリン奏者で、余市町で有機農業を営む牧野代表(48)。宮沢賢治が「農民芸術概論綱要」で展開した芸術と労働の融合という考え方にひかれ、友人らと酒を飲んだ時、結成の話が

持ち上がったという。農閑期に練習、演奏し、初公演は95年。ベートーベンの交響曲第6番「田園」などを演奏した。楽団員のうち、農家は3分の1ほどだが、ほかにも農業試験場や肥料会社、農機具会社の会社員、農学関係の教師や学生など、農業と関係する人が大半を占めている。

牧野代表ら楽団員にとつて、西洋音楽のふるさと・ヨーロッパで演奏旅行をするのは夢だった。2009年6月、楽団員の酪農学園大学の教員



④海外公演に向け、練習にも熱が入る北海道農民管弦楽団＝札幌市西区の「ちえりあ」
⑤「北海道農業のふるさとへ、農民による音楽を届けたい」と話す牧野時夫さん＝余市町

や卒業生らの紹介で、牧野代表が同大学特任教授でデンマーク在住の農学者、高井久光氏と会い、デンマーク公演を打診し、計画が動き始めた。同大は創始者の黒澤西蔵氏がデンマークの酪農や教育に傾倒していたこともあって、同国と活発に交流してきた。

高井氏の仲介で、同大傘下のとわの森三愛高校の生徒たちの研修を受け入れている現地の農業学校での演奏会と講演、日本人も在籍しているシエルポ市のアマチュアオーケストラとのジョイント演奏会などがまとまった。

演奏旅行は2月11～17日。ドボルザークの交響曲第8番などを合同演奏するほか、牧野さんが自ら作曲した「北海道奇想曲」も披露する。

出発前の今月30日午後2時から、江別市の江別市民会館で「国内プレ公演」を予定している。入場料は1500円(一般)、500円(高校、大学生)、中学生以下無料。問い合わせは江別公演実行委員長 川原さん(090・6282・7108)へ。